

令和4年度自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成</p> <p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 「地域探究の時間」の発展・充実</p>
---------------------------	--

<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく ①進路目標の明確化 ②基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく ①基本的生活習慣の確立 ②生徒会活動・部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく ①学校行事・学級活動の充実 ②安全意識・安全技術の向上 4 「地域探究の時間」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 ①業務の精選と組織的な実施 ②生徒への適切な対応</p>
-----------------	--

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年度当初				評価結果(3)月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和3年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	<p>○ふるさとキャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。</p> <p><指標> 1年:全員が具体的なキャリア目標を1つ以上掲げる。 2年:3つ以上の進路候補について比較・調査を行う。 3年:具体的な進路先について志望理由を明確にさせ、進路実現する。</p>	<p>○入学当初は進路目標が不明確な生徒が目立つが、総合的な探究の時間(地域探究や進路探究)やLHRを通してキャリア目標が明確になる生徒が増える一方で、進路目標が明確にならない生徒が若干見られる。</p> <p><R3実績> ・1年:多くの生徒が具体的なキャリア目標を1つ以上掲げることができた。 ・2年:3つ以上の進路候補を掲げることができた生徒3割程度であった。 ・3年:具体的な進路先について志望理由を明確にし、ほとんどの生徒が進路実現できた。</p>	<p>○「地域探究の時間」を基軸とし、地域や社会の担い手となる自覚を促し、そのための自己実現につながるキャリア目標を設定させる。</p> <p>○ボランティア活動を奨励し、地域とのつながりを体験することを通して将来の生き方・在り方を考えさせる。</p> <p>○進路志望調査をもとに、生徒一人ひとりの進路目標の変化を把握するとともに、進路検討会において情報の共有とキャリア目標を実現するための個々にあったアドバイスを検討し、面接週間だけでなく模試の前後など機会をとらえて担任面接や教科面談を行う。</p> <p>○多様化する入試制度に対応するための教員研修を実施し、教職員の進路指導力向上に努める。</p>	<p>○1年生:進路学習を体系的に行い、キャリア形成を図る取り組みを行った。</p> <p>○2年生:3回の進路志望調査を通して進路候補について比較・調査を行い、キャリア形成の意識が高まりつつあるが、まだ不十分であった。</p> <p>○3年生:総合的な探究の時間を活用し、2学期から将来のキャリアを意識して、毎週進路別学習を行うことができた。また、担任面談をこまめに行い、学校調べや志望理由書の作成等の時間を確保することができた。放課後には出願書類の添削・面接練習、プレゼンテーションに向けての準備を個別に教員とともにいった。</p> <p><R4実績> ・1年:ほとんどの生徒が具体的にキャリア目標を1つ以上掲げることができた。 ・2年:3つ以上の進路候補を掲げることができた生徒は5割程度だった。 ・3年:すべての生徒が進路実現できた。</p>	B	<p>○1,2,3年ともに「ふるさとキャリア教育全体計画」をもとに、「総合的な探究の時間」や「LHR」の年間計画を見直し、「地域探究」や進路LHRを通して地域や社会の担い手となるための志とそのためキャリア目標を設定させる。</p> <p>○1年次より、「自己理解」→「学問研究」→「学校研究」の順に進路学習を行うことで上級学校への進学意欲を高めるとともに、早期にキャリア形成を目指す。</p> <p>○上級学校調べを行う中で、改めて就職への意識が高まった生徒には職業調べや志望理由書作成を通してキャリア形成を図る。</p>
	基礎学力の向上	<p>○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p><指標> ・進研模試・進路マップ(実力診断・基礎力診断)・スタディサポートで、GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・50%以上 ・2年:3教科総合・・・50%以上 ・3年:3教科総合・・・50%以上</p>	<p>○落ち着いて授業に取り組む生徒が多い中、学ぶ意義が見いだせない生徒が一部に見られる。</p> <p>○授業の予習・復習の取り組みが不十分のために、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が目立つが、考査前には考査範囲の復習や課題に意欲的に取り組む生徒が多い。</p> <p><R3実績> GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・37.3% ・2年:3教科総合・・・19.3% ・3年:3教科総合・・・12.5%</p>	<p>○「総合的な探究の時間」や「LHR」での取り組み、個別面談を通して学びの意義を理解させ、学習意欲を高める。</p> <p>○ICTを活用した探究・発見型授業及び課題配信等をすすめる、生徒の学習への意欲を高める。</p> <p>○スタディサポートの結果から未定着の分野を洗い出し、週末や長期休業の課題とし学び直しをさせたり、スタディサブリの到達度テストの課題や動画・確認テストを計画的に配信することで、家庭学習の習慣付けと未定着分野の補強に努める。</p>	<p>○1年生:授業で学力をつけることを第一に据え、習熟度に対応した考査や個別添削、進進者への学習指導などを行い基礎学力の定着に努めた。</p> <p>○2年生:授業を大切に、考査前指導や課題の提出指導を行ったが、学力向上の取組を十分に進めることができなかった。</p> <p>○3年生:大半が総合選抜・学校推薦型入試を活用したため、志望理由書作成や小論文・面接対策に意識がいき、学力向上の取組を十分に進めることができなかった。</p> <p><R4実績> GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・56.2%(1月模試との比較) ・2年:3教科総合・・・19.0%(1月模試との比較) ・3年:3教科総合・・・7.3%(7月模試との比較)</p>	C	<p>○1・2年生:学習リーダーを育成するため、希望者に対して個別の添削指導を行う。</p> <p>○3年生:総合選抜・学校推薦型入試が中心となるが、学力の定着や模試の意義に関する進路講演会を行うとともに、卒業後を見据え、模試や到達度テスト、事前教材を活用して学力向上を図る。</p> <p>○全学年:基礎学力の向上に向けて、全教職員共通理解のもと授業改善に努める。授業「わかる」→課題「できる」→確認テスト「できるを確かめる(実感する)」のサイクルを回す。</p>
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的生活習慣の確立	<p>○生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。</p> <p><指標> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)が生徒数の70%以下となる。 ・頭髪・服装指導対象者数、問題行動指導対象者数が前年度よりも減少している。</p>	<p>○クラス担任、生徒会の協力しながら、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。</p> <p>○指導票の活用とともに、保護者への連絡を行いながら、生徒指導を進めている。問題行動指導対象者は減少しつつあるが、服装検査でくり返し指導を受ける生徒は依然として存在する。</p> <p>○遅刻者数は、2年生、3年生とも、昨年度1年生、2年生に比べ増加した。</p> <p><R3実績> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)は、生徒数の113.6%で前年度より8.4%減少した。 ・問題行動指導対象者数は、前年度よりも23.8%減少した。</p>	<p>○5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰)</p> <p>・遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。同時に家庭連絡を入れ、学校・家庭の連携を図る。</p> <p>・教室や公共の場所からの私物の撤去し整理整頓を徹底し、学習環境を整える。</p> <p>・基礎・基本の徹底、公共マナー・交通ルールの徹底等、SHRや学年集会などでのタイムリーな指導をする。</p>	<p>○クラス担任、生徒会の協力も得ながら、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。</p> <p>○指導票の活用とともに、保護者への連絡をとりながら、生徒指導を進めている。服装検査での指導件数は減少してきているが、服装検査時以外で化粧・スカート丈で指導を受ける生徒がみられる。生徒の問題行動等は昨年より減少している。</p> <p>○遅刻者数は、昨年度よりも増加した。(1月末現在) <R4実績> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)は、生徒数の126.9%。 ・問題行動指導対象者数は、前年度より16.7%減少した。</p>	C	<p>○保護者への連絡の機会を逃さず行い、生徒自身の個々の物事に対する考え方の改善を図る。(基本的習慣の確立・マナー、モラルの向上)</p> <p>○教職員による朝の挨拶運動を継続していく。</p> <p>○定期的に学年間での情報共有を行い、全学年で統一した指導を行うとともに、機会をとらえて、生徒の規範意識の醸成を図る。</p> <p>○後期生徒会が主体となり、教室環境の整備や学校の校則(主に服装に関する事項)の見直しを進める。その取組を通して、より良い学校づくりに主体的に参画する意識を多くの生徒に身に付けさせるよう促す。</p>
	生徒会活動・部活動の充実	<p>○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。</p> <p>○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身につけている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コースの生徒は、講演会や講習会を通して、トップアスリートを目指す意識レベルを高めている。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ85名(全校生徒の3割)以上となる。</p>	<p>○育英新聞発行時に校則やルール・マナーなどを生徒会として継続して問題提起してきたが、各委員会を生徒が自主的に企画運営することには至っていない。</p> <p>○3年体育コース(35名中)上級学校へ進学希望24名、うち11名が競技継続予定。体育・スポーツ系の上級学校進学者5人。</p> <p><R3実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」・・・95%。 ・県大会優勝9部、全国大会出場8部、全国大会出場者数は延べ136名(約40%)であった。</p>	<p>○各種委員会と協力し、生徒総会での目標を達成するため、執行部のリーダーシップを高める。</p> <p>○行事におけるクラス内での係りの仕事を共有できるようクラスに提案する。</p> <p>○部活未加入者にボランティアサークルに加入するよう呼びかけ、ボランティアなどに参加するよう促す。(体育コース)</p> <p>○スポーツ・文化芸術活動重点校として、体育コースの取組である「各種講演会・講習会」を通し、競技力の向上に繋げていく。</p>	<p>○育英祭に向けては、クラスLHRの回数、各委員会の回数を増やすことで、生徒主体で準備ができた。アンケートでは「全体的によかった」が98%であった。</p> <p>○10月に後期生徒会役員選挙を実施、会長副会長ともに投票による選挙となった。新執行部体制のもと球技大会を行い、生徒が主体となったより良い学校づくりを進めた。</p> <p>○3年体育コース(17名中)上級学校へ進学する生徒は14名おり、その内7名が競技を継続する。</p> <p>○全国高校総体に陸上・レスリング・ソフトボールが出場し、男子バレーボール部は全日本バレーボール高等学校選手権大会に6年連続出場した。また、レスリング部は全国選抜大会に団体・個人(5名)が出場する。○山岳部はクライミング競技で日本代表として2名が世界大会に出場した。</p> <p><R4実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」・・・96%。 ・県大会優勝のべ6部。全国大会出場のべ9部、全国大会出場者数のべ93名。</p>	A	<p>○次年度に向けて生徒会行事をスムーズに進めるため、生徒たちが主体となって運営できるように、早めに行行委員会(運動会・育英祭)を設定し、内容・ルール等が確実に伝わるようにする。</p> <p>○部活動未加入者(中途退部者含め)を把握し、ボランティアなど参加するよう促す。</p> <p>○部室点検・清掃を実施する。</p>

年 度 当 初				評 価 結 果 (3) 月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和3年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・学級活動の充実	○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。 <指標> 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができています」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○育英祭では、実行委員を中心に生徒自身が考え運営委員に周知徹底できるように動いていた。 ○球技大会の新しい取り組みに対し、執行部員が意見を出し合い、クラスに伝達できた。 ○3学年合わせての体育コース集会は実施できていない。 <R3実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができています」・・・94%	○育英祭などでは、クラスの運営委員にクラス全員で協力できるような方法を徹底させる。 ○執行部員が中心となり、学校行事を企画する。(体育コース) ○「各種実習」を実施し、人間性や協調性を養う。 ○定期的に体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。	○育英祭では、ルールを守り、各クラスがよく協力して取り組めた。 ○体育コースの行事については、コロナの影響により、3年キャンプ実習が宿泊なしの日帰り3日間で実施した。2年生のスキー実習も宿泊なしの3日間で実施した。1年生の環太平洋大学研修は日帰りで実施、上級学校への意識付けができた。大運動会では、企画・準備段階から意識をもって取り組めた。1.2年生対象の各種講演会も計画通り進んでいる。 ○9月に行われた運動会では、2年生体育コースも集団行動に参加し、協力して実施できた。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができています」・・・98%	A	○引き続き、行事ごとにルールを確認し、生徒が主体となって取り組めるようにする。 ○体育コースの各種講演会を計画通り実施していき、競技力向上とともに上級学校への進学意欲を意識させる。 ○来年度、中国四国体育学科コースの当番校として、公開授業に向けて生徒自身も準備の段階から役割等を持たせ、リーダーとしての責任を持たせる。 ○体育コース集会は、定期考査前など機会を捉えて実施する。
	安全意識・安全技術の向上	○生徒が安心して安全に学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 <指標> 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○救急救命講習は、冬季休業中に実施した。 ○「学校生活に関するアンケート」は、1学期に2回(5月・7月)、2学期に1回(9月)、3学期に1回(2月)実施した。その結果は、環境保健部と各学年で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。 <R3実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」・・・91% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・89%	○教職員及び生徒(部活動各役員)対象の救急救命講習を今年度も実施し、全員の受講をめざす。 ○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関するアンケート」を今年度も4回実施し、組織的な対応を図る。	○救急救命講習は、冬季休業中に実施した。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月・7月)2学期に1回(9月)3学期に1回(2月)実施した。その結果は、環境保健部と各学年で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」・・・95% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・93%	A	○次年度も、避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○救急救命講習については、この講習が導入された経緯・趣旨を踏まえて、教職員・運動部部員の全員受講を目指して継続していく。 ○「学校生活に関する調査」は、次年度も各学期に1回以上実施し、実態把握に努めるとともに、環境保健部と各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。
「地域探究の時間」の発展・充実	「地域探究の時間」の発展・充実	○1年生:探究活動の基礎的な知識・技能を身につけている。 ○2年生:探究活動の実践を通し、自己肯定や社会貢献に対する意識の高まりとともに、ソーシャルスキルの向上が見られる。 ○3年生:探究活動の学びが自らの進路実現へつながった。 <指標> 1年:「地域探究入門」の事後アンケートで、「探究活動の基礎的な知識・技能が身についた」と感じる生徒が90%以上となる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して10%以上向上する。 3年:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」と自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。	○1年生:まだ探究活動についてのイメージがあやふやで、知識技術ともに身につけていない。 ○2年生:テーマごとのグループに分かれ、探究意欲が高まっているが、自らの問題意識や仮説までははっきりしていない。 ○3年生:2年次の「地域探究」の活動を活かし、キャリア目標に向かって前向きに取り組む生徒が多いが、進路目標が不明確なままの生徒も少なくない。 <R3実績> ・1年生:事後アンケートで、「挨拶する力」・・・63%、「プレゼンする力」・・・36% ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して13%向上した。 ・3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】・・・46%。 【地元の魅力をたくさん知った】・・・87%。 【地元で働きたい】・・・64%。 【地元で暮らしたい】・・・69%。	○1年生:テキストを使用し、クラス担任を中心に年間を通じて定期的に探究活動を学ぶ授業を行う。 ○2年生:地域の方々や連携しながら、フィールドワークなどの体験とともに、その振り返りを行い、教職員の問いかけ等により、自らの問題意識や仮説をその都度考えさせる。 ○3年生:進路探究の時間や多様な教員との面談を通し、自らの問題意識やあり方等を見つめ、自分自身の進路目標を明確にさせる。	○1年生:テキストを使用し、スキル学習を中心に10時間の活動を行った。また、2年生のフィールドワークを見学に行き、次年度の活動をイメージさせた。 ○2年生:地域の方々にお世話になり、フィールドワークやインタビューを通じて地域課題の解決を考察し、発表にまとめた。そのうち1チームが「中部高校生フォーラム」に参加した。また、校内発表会で選考された代表チームは岡山県真庭高校探究成果発表会に参加した。 ○3年生:卒業時アンケートにおいて、「「地域探究の時間」の学びが進路実現につながった。」の項目に肯定的な回答した生徒は、53%であった。 <R4実績> ・1年生:「探究入門」の事後アンケートで「探究活動の基礎的な知識・技能が身についた」・・・94% ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して1.9%減少した。 ・3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】・・・53% 【地元の魅力をたくさん知った】・・・91% 【地元で働きたい】・・・64% 【地元で暮らしたい】・・・74%	B	○1年生:来年度は、探究活動への意欲を高めるために、夏休み前までにキャリア意識を高める取り組みを行う。そして、「探究入門」の授業を夏休み以降から開始する。さらに、授業の間隔を短くすることによって流れの途切れない活動を行いやすくする。 ○2年生:生徒たちの興味関心・問題意識を中心とした課題設定をするために、時間設定やグループ分けの方法・教員配置の仕方などの環境を整備する。また、教職員用の活動マニュアルを作成し、共通認識の下で活動を進めていく。 ○3年生:引き続き、進路別学習や教員とのこまめな面談を通し、自らの問題意識やあり方等を見つめ、自分自身の進路目標を明確にさせる。
	業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。 <指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。	○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識するよう働きかけ、時間外業務時間が減少した。 ○部活動において、日頃から生徒が自ら考えて行動するように、定期的に部会をもっている。 ○会議の効率化を図るため、年度当初に各種委員会のメンバーを見直した。 <R3実績> ・年間360時間越えの職員は5.9%(R2:20.8%)	○引き続き、教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識する。 ○行事の実施内容の精査、期間・時間の短縮を図る。 ○部活動の月間計画・実績の提出を徹底することにより、部活動実施のルールを徹底する。 ○各種委員会等の会議について、事前に資料配布し、会議の効率化を図る。	○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について話題にし、互いに声かけを行うことで、教職員自身の自覚を促し、時間外業務の減少につながっている。 <R4実績> 4月～1月までで時間外業務300時間を超えている教職員は2.2%。	A
	生徒への適切な対応	○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。 <指標> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度より減少している。	○3年生の進路指導(個別指導)を組織的に行う体制作りをすすめるとともに、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにしている。 <R3実績> ・3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の延べ6人(R2:33人)	○3年生の進路指導(個別指導)を組織的に行う体制作りをすすめる。 ○引き続き、3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにする。	○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。また、昨年度に引き続き、推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにした。 <R4実績> ・3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員は1人。	A	○引き続き、時間外業務が特に多い教職員には、適宜、声掛けを行うとともに、時間外業務の実態を把握し、3年生への個別指導を教職員で協力して行う。